

# 第7章

## 都市像の実現化方策

### 7.1 都市像の実現に向けた都市計画の基本的な進め方

#### 1 市民と行政との協働

社会情勢などの変化とともに、まちづくりの課題も多様化し、都市計画の観点から解決しなければならない課題は数多くあります。これらの課題解決のためには行政が主体的に取り組んでいく必要がありますが、行政だけではその実現は困難であり、適切な役割分担のもと、「まちづくりの主役は市民である」との基本に立ち、市民と行政が一体となって市民力・地域力を発揮したまちづくりに取り組んでいくことが重要です。

##### 市民との協働の推進

- まちづくりの主役は市民であり、そのためには、市民が積極的に参加できる場をつくることが重要です。
- そのため、施策の展開にあたっては、調査・計画・設計・実施などの様々な段階において、市民が参画する審議会や委員会の開催、事業説明会など、市民がまちづくりに参加できるような環境づくりに努めます。

##### 協働体制の確立

- 市民一人ひとりの実践に加え、同じ思いを持った人が集い、関連する情報の提供や交換を行いながら、大きな組織との連携をすることにより、都市計画マスタープランの実現性が高まります。
- そのため、都市計画に対する市民の関心を高めていくことが重要であり、都市計画に関する情報公開及び提供を積極的に進めるとともに、市民、事業者、行政が同一の場で議論することができるような体制づくりを推進します。

#### 2 近隣市町との広域的な連携強化

県境に位置する本市は、古くから両毛地域として生活圈を形成しており、栃木県内の近隣市はもとより、群馬県内の近隣市町とも結びつきが強く、本市のまちづくりの推進には広域的な視点が必要です。

これまでのまちの成り立ちやそのつながりを考慮し、都市と都市が相互に発展する施策を連携し実施することで、一体的なまちづくりを推進します。

##### 本市と一体の都市として総合的に整備する区域

- 都市計画マスタープランの上位計画であり、栃木県が策定する「足利佐野都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」では、本市は隣接する佐野市と同一の都市計画区域として、足利佐野都市計画区域に指定されています。
- このことから、単独の都市という考え方ではなく、生活圈を一体とし、更には歴史的な経過も踏まえながら、一つの都市として都市計画を進める必要があるため、連携を密にしながら、本市のまちづくりを推進します。

## 両毛6市での広域的な連携強化

- 本市と近隣市で構成される両毛6市は、栃木県と群馬県という違いはあっても、渡良瀬川沿川の都市として、密接に生活圏を形成しながら発展してきた、歴史的にも経済的にもつながりが強い地域です。
- このことから、県及び市の枠を超え、広域的な連携及び調整を図りながら、都市計画を進めることで、本市のまちづくりを推進します。

## 3 柔軟かつ効率的な都市計画

都市計画マスタープランは、都市計画に関する基本的な方針ですが、その内容は広範囲であり、具現化していく段階では都市計画部局だけでの対応では解決できないものも多く含まれています。

より良い都市を目指すために、今後は都市計画が環境や福祉、教育、産業など様々な分野と相互に連携し、市民の要求に応えながら、多種多様な施策や事業を進めていくことが必要です。しかし、これらの施策や事業は同時に進められないものも多く、財政的な制約もあることから、優先度を考慮し、計画的に事業を推進します。

## 行政における推進体制の確立

- 国、県との連携強化を図り、適正な役割分担のもと、まちづくりを推進します。
- 多くの部門が関わる施策については、庁内プロジェクトチームを設置し、多面的に実施方法を検討することで、効率的かつ効果的に事業を推進します。

## 財政面と整合した計画的・段階的な施策の推進

- 施策は限られた予算の範囲で最大限の効果を得ることが必要であり、全ての施策を一様に進めていくことは困難となっています。また、少子高齢化社会の中、本市でも新たな住宅地の整備よりも既成市街地の再整備や再構築に力を注いでいくことが必要となっています。そのため、単なる新規開発型への公共投資を進めるのではなく、既存ストックの活用や既成市街地などの再整備を中心とした、重点的な投資を進めます。

## 民間活力の導入

- 公共施設などの整備や管理運営にあたっては、限られた予算内においても、効率的で質の高い公共サービスの提供が求められています。そのため、PFI方式などによる、民間の資金やノウハウを有効に活用することにより、財政負担の軽減や事業の効率化、サービスの向上などの効果が期待できる施設は、民間活力の導入を積極的に検討します。

## 4 まちづくりと都市・地域経営の一体的推進

足利らしい個性と愛着を感じられるまちづくりと、効率的かつ効果的な行政改革や都市・地域経営とを一体的に推進することで、持続可能で質の高い都市を形成します。

### 持続可能なまちづくりの推進

- 本計画で位置付けた複数の拠点に、都市機能などの集積を図るとともに、これらの拠点を公共交通や道路網など、多様な交通ネットワークでつなぐ、環境への負担が小さく利便性の高い持続可能なまちづくりを進めていきます。
- 足利の特徴を活かした持続可能なまちづくりを進めることにより、人・物・情報の交流を活発化させ、まちの魅力や価値を高め、住んでよし、訪れてよしのまちづくりを推進します。

### 空き家対策の推進

- 本市の空き家の実態を把握しながら、その適切な管理を促し、危険な空き家を解消していくことで、地域の安全で安心な生活環境の保全を図るとともに、空き家を移住・定住促進や地域振興の資源と捉え、その利活用を促進するなど、空き家対策を総合的かつ計画的に進めます。

### 公共施設マネジメントとの連携

- 公共施設の統廃合を検討する際には、都市機能を集積する拠点に施設を移すなど、行政改革や都市・地域経営の視点から行われる公共施設の再編をまちづくりと一体のものとして捉え、連携を図ります。
- インフラ系施設については、市民の日常生活や経済活動における重要なライフラインであるとともに、大規模災害時などでは、救援や災害復旧における重要な基盤施設であることから、既存ストックの状況を踏まえ、中長期的な見通しに基づき、整備と改修・更新を行うなど、効率的な投資を行うことを基本方針とします。

## 5 計画の進行管理と見直し

効率的かつ効果的な計画実現のためには、各事業や都市計画決定の手續などの進捗状況も含め、計画の進行管理を適正に行うことが必要です。

また、社会経済情勢の変化などにより、計画を見直す必要性が生じた場合には、柔軟に対応していく必要があります。

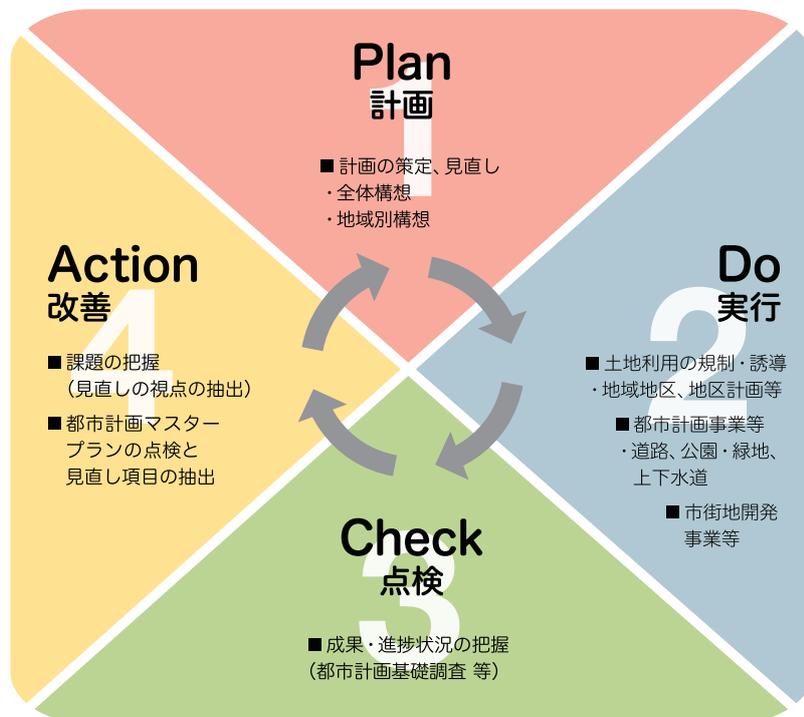
これらを踏まえて、計画の進行管理や見直しを実施し、持続的な都市の発展を図ります。

### 計画の進行管理

- 本計画で位置付けた各種の取組やプロジェクトについては、庁内の情報共有などによる横断的な連携のもと、進捗状況を確認し、PDCAサイクルにより本計画の進行管理を行います。

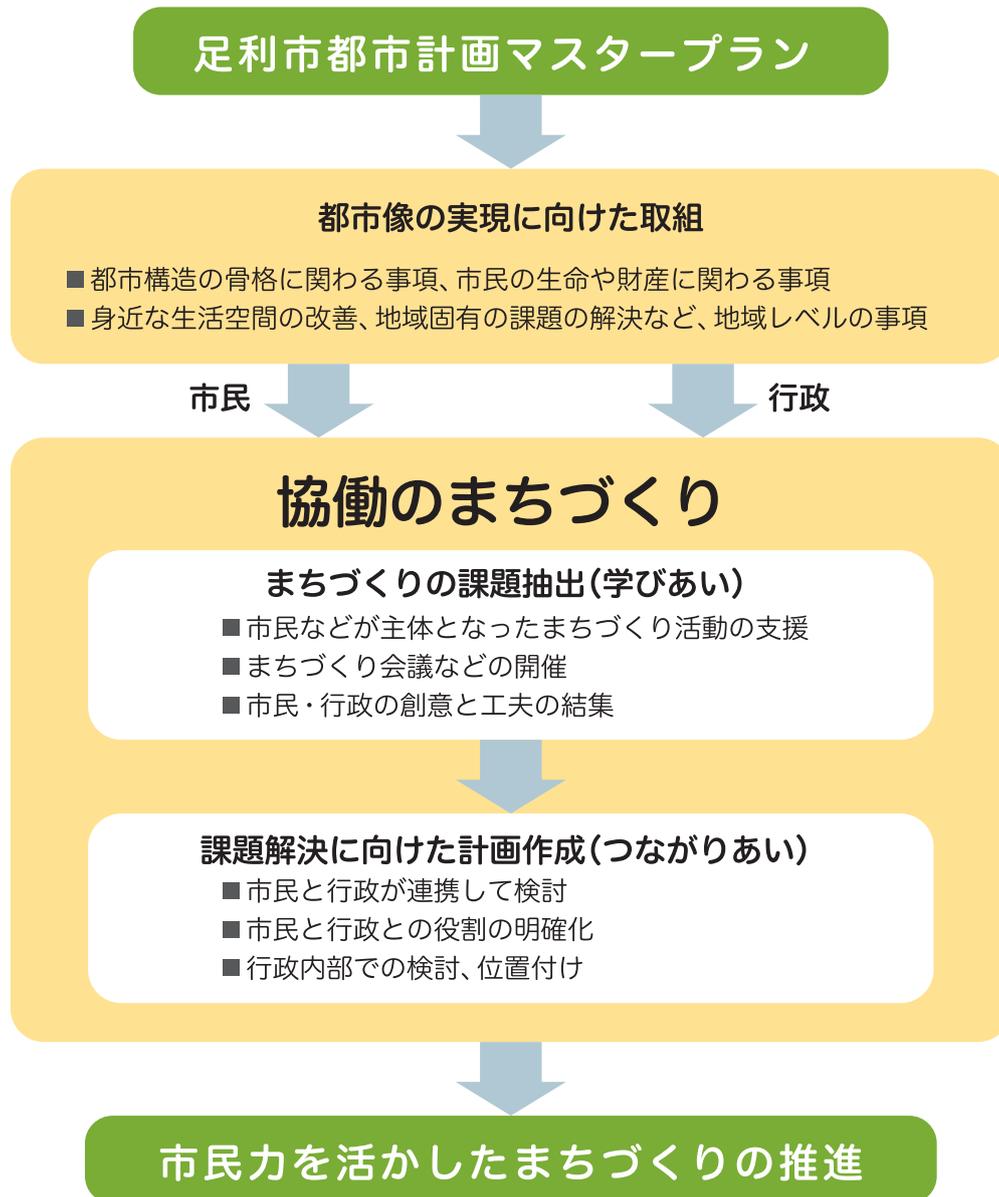
### 計画の見直し

- 都市計画マスタープランは、短期的に実現する取組もありますが、長期的な見通しに立って取り組むものもあります。
- その間に、社会経済情勢が変化したり、上位計画である総合計画が見直され、大きく政策が転換されたり、新たなまちづくりの機運が高まり、市民などから計画の見直しが提案されたりすることが考えられます。
- このような契機を的確に捉え、概ね本市総合計画の策定ごとに本計画の見直しを行うことを基本としますが、必要に応じ適切な段階での見直しも検討するものとします。



## 6 これからの都市計画の進め方

今後の都市計画の進め方は、都市計画マスタープランをもとに、市民と行政が協働し、市民力を活かしたまちづくりを推進していくことを基本的な考え方とします。



1  
2  
3  
4  
5  
6  
7

都市像の実現化方策